

研究・調査報告書

| 報告書番号 | 担当 |
|--|----------------------|
| 1 1 6 | 滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門 |
| 題名 (原題/訳) | |
| Serum selenium determinants in French adults: the SU.VI.M.AX study. フランス人における血清セレンウム濃度の決定要因: SU.VI.M.AX 研究より | |
| 執筆者 | |
| Arnaud J, Bertrais S, Roussel AM, Arnault N, Ruffieux D, Favier A, Berthelin S, Estaquio C, Galan P, Czernichow S, Hercberg S. | |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日) | |
| Br J Nutr. 2006 Feb;95(2):313-20. | |
| キーワード | |
| セレンウム、地域、アルコール、喫煙、食習慣、断面研究 | |
| 要 旨 | |
| <p>目的: 本研究は血清セレンウム濃度と外的決定要因 (生活習慣、社会活動、居住地域、教育背景、運動習慣、BMI、喫煙、食物およびアルコール摂取量など) との関連 を検討することを目的に行われた。</p> <p>方法: SU.VI.M.AX (ビタミン補給と抗酸化物質) 研究に参加した 13017 名 (35-60 歳の女性 7876 名、45-60 歳の男性 5141 名) のベースライン調査の結果から、血清セレンウム濃度の検査を受けた女性 7423 名と男性 4915 名を解析対象とした。</p> <p>結果: 生物学的準セレンウム欠乏症のカットオフポイントであるセレンウム濃度 0.75μmol/L 以下を示した被験者は 2%未満であった。女性 (1.09\pm0.19μmol/L) は男性 (1.14\pm0.20μmol/L) と比較して有意に血清セレンウム濃度が低かった。また、血清セレンウム濃度には有意な地域差が認められた。男女とも、飲酒量および肉・魚の摂取量が増えるに従い血清セレンウム濃度は上昇し、喫煙量が増えるに従い低下していた。閉経前の女性では、経口避妊薬服用者のほうが非服用者よりも血清セレンウム濃度が高かった。血清セレンウム濃度は加齢に伴い上昇し、肥満者では (BMI30 以上) 低値を示したが、これらの関連は女性でのみ観察され、男性では見出せなかった。男性においては、野菜と果物の摂取量が増えるにつれ血清セレンウム濃度は低下していた。</p> <p>結論: SU.VI.M.AX 研究の被験者で準セレンウム欠乏症のカットオフポイントを下回る血清セレンウム濃度を示した被験者はごく少数であったが、女性の 83%と男性の 75%がグルタチオン・ペルオキシターゼ活性のために最適と考えられる値よりも低い血清セレンウム濃度を示していた。男女とも最も強く血清セレンウム濃度と関連していたのは、居住地域、喫煙、飲酒、肉・魚摂取量であった。血清セレンウム濃度の男女差を検討するためには更なる調査が必要だろう。</p> | |